

よしのっ子

学校だより No.13
令和3年3月23日
吉野町立吉野小学校
発行者
校長 畑 秀 行

明るい笑顔 学び合い 高め合う

ありがとうございました

今年度は、新型コロナウイルス感染予防のために、学校教育において大きな見直しを必要とされた1年でした。学校で今まで当たり前のように行っていた学年や学校での取り組みができなくなり、今までしていなかった感染予防の取り組みをしなければならなくなりました。

コロナ禍において、本校では、「できない理由」から「できる理由」に視点を向けることにしました。感染リスクがあるからやめてしまうのではなく、感染予防をしたうえで縮小したり、制限を設けたりすればできるということを基本に取り組みの見直しをしました。その際にもう一つ大切にされたことは、「目的思考」です。各々の活動の目的を明確にすることで、縮小しても問題がないもの、他のことで代用できるもの、活動自体があまり必要でないものが明確になり、さらに行うことが目的になっている会合や活動をやめるなどの精選も行いました。

このコロナ禍の中で子どもたちは、自分で考えて行動をし、本当によくがんばってくれました。保護者の皆様におかれましては、学校の考えやお願いごとにご理解をいただき、快くそして積極的にご協力をいただきました。ご不満に思うことや至らない点もあったかと思いますが、それでも学校の方針に任せていただいている気持ちが随所に見られ、大変心強く感じました。その気持ちに背中を押され、私たちも思い切った決断をさせていただくことができました。そして、それが子どもたちの笑顔につながったことが何よりもうれしいことです。

そういう意味でも今年は、子どもたち、保護者の皆様方、職員、そして地域の皆様とが、「チーム吉小」としてつながり支え合えた1年になったのではないかと思います。

1年後には吉野さくら学園が開校をします。来年度は、閉校と開校の準備もしなければならぬため、何らかの対策を考えないと多忙な1年になってしまいます。今年度の経験を生かし、来年度も新たな取り組み方を模索したいと考えています。今年1年間、本当にありがとうございました。今後も変わらずのご支援とご協力をお願いいたします。

お知らせ

学校評価は、今週中にホームページに掲載しますので、お時間のあるときにご覧ください。

【吉野小HP】

QRコードが使えない場合は、「吉野町立吉野小学校」で検索してください。



そこで、はっきりと見えてきたことは、“心身のゆとりの大切さ”です。

今までは次から次へと行事や活動があり、正直、職員も子どもたちも時間的にも心的にも余裕がないアップアップの状態です。「決まったことをしなければならない」という受け身でこなしていたところがありました。

しかし、取組みや会合等が減ったことで、子どもたちにも、職員にもゆとりができ、一つ一つのことに對して、こなすのではなく、考えながらじっくりと取り組むことができ、子どもたちにとっては、達成感を得ることにもなっています。新しい取組みのアイデアが子どもたちからも職員からも出るようになり、活気がありました。

また、心にゆとりができると子ども同士のトラブルやケガも減り、昨年と比べるとかなり少なくなっているようです。

たくさんやればよいというものではなく、やはりよい教育のためには、広い視野をもち、じっくり考えて取り組むことができる“心身のゆとり”が、必要であると確信できた一年でもありました。